

【松原市】市長同席のもと現地審査

8月1日から2日間、大阪府松原市においてSC認証に向けた現地審査が行われました。前日午後には松原市入りした審査員〔チョウ・ジュンピル氏(韓国)、パイ・ル氏(台湾)、ワン・シュメイ氏(中国上海)〕は、夕刻に市役所を訪れ市長と面談しました。その後、会場を移し、推進協議会や対策委員会のメンバーをはじめとする地域の方たちや他自治体からの視察者とともに松原市の概要及びSC活動の全体像について説明を受けました。

2日間にわたり、市長同席のもと、各対策委員会、サーベイランス委員会の報告と活動の視察が行われました。SC導後に安全対策がどうか変わったのか、前年の中間審査でいただいたアドバイスにどう対応したか、などをコンパクトに説明され、審査員から高い評価を受けました。審査後の講評では、チョウ審査員からの「Congratulations



松原市現地審査での最終講評の様子

(おめでとうございます!)」の言葉に会場は感動の空気に包まれました。

【久留米市】現地審査に韓国自治体が視察

松原市の現地審査を終え、週末を挟んだ後に久留米市の現地審査が行われました。市のご配慮で、現地審査の前日、審査員3人は市内にて日本文化・久留米文化を体験することができ、心身ともにリフレッシュされました。

8月6日、久留米市での現地審査がはじまり、審査員は2.5日かけて久留米市のSC活動に関する報告を受けました。各対策委員会では、対策の内容とともにSC導入によって取組がどのように変わったか、などを説明されました。加えて、久留米市は「校区コミュニティ」という小学校校区単位での包括的な地縁組織が整備されているため、その特徴を生かした取組も紹介されました。

今回、韓国の支援センターから「日本のSC活動を韓国にも参考にしてもらいたいの、視察を受け入れていただけないか」という依頼をいただき、韓国の自治体から10名ほどの視察がありました。加えて、9月末に認証審査を

控えた釜山広域市のSCを支援されているペ・ジョンイ教授(インジェ大学)もオブザーバーとして来日されました。

最終日の講評においては、チョウ先生から審査員を代表して「Congratulations(おめでとうございます!)」の言葉をいただきました。英語でのコメントが和訳されるまで緊張に包まれていた会場は、「おめでとうございます」と日本語に訳されると安堵の空気が流れました。



現地審査を終えて、「くるっば」と記念撮影の空気が流れました。

【松原市・久留米市】内定通知届く!

松原市及び久留米市の現地審査では、いずれも「Congratulations(おめでとうございます!)」の言葉をいただきました。その後、認証センターでは、書類Aの審査欄に審査結果を記入の上、正式に「松原市、久留米市ともISCネットワークのメンバーにふさわしいと判断します」とWHOCCSP(SC協働センター)に連絡をされました。

これにより、両市の認証が内定したこととなり、認証センターから内定通知書がJISCに届きました(19日)。JISCが、内定通知書の和訳を添付し、申請書の改善点等を示して、両市に送付しました。松原市からは、さっそく新聞に取り上げられたとご連絡いただきました。また、市長から直々にお礼のお電話をいただいたうえに、審査員の方々にもお礼状を出したいとご相談いただき、JSICでその橋渡しをしています。

【秩父市】ISC及びISS動き始める!

8月19日午後、秩父市では、事務局担当課会議、IS S取組み校研修会、第1回合同対策委員会が続けて開催されました。これから重点課題ごとに対策委員会を設置し、分野横断的な活動を始めるにあたって、対策委員会事務局となる担当課のみなさんに対策委員会として役割及び今後のプロセスをご説明させていただきました。また、続いてISSに取り組まれる2小学校、1中学校の方たちにISS認証までの流れや実際にどのようなことをしていけばよいのか、を説明させていただきました。

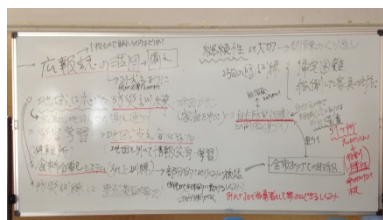
まだ、日本では中学校における事例がないため、やや心配そうなお様子でしたが、「前例がない今こそ、自由に絵が描ける絶好のチャンスです」とお伝えしました。



その後、夕刻からは第一回合同対策委員会が開催されました。事務局から秩父市の地域安全診断の結果が報告され、それに伴う対策委員会候補が紹介されました。また、JISC 白石がセーフコミュニティにおいて対策委員会はどのようなことを勧めていくのか、を説明しました。秩父市にはすでに地域で活発に活動されている方も多く、ご自分たちの活動と関連させてどう活動を進めていくのか、といった点にご関心がおありなのか、熱心に聞いておられる方が多い印象を受けました。

【北本市】対策委員会での協議進む

秩父市に続き、20日から22日の午前まで、北本市において対策委員会及びサーベイランス委員会が開催されました。各対策委員会では、ワークショップやデータ分析などから得た情報をもとに、対策委員会としての方向性(目標)を定め、具体的な取組みについて議論を重ねています。最初にワークショップを通していろいろと発言



対策委員会では意見でボードがいっぱいに！

する機会が多かったからでしょうか、北本市の対策委員会は非常に発言が多く、時にまとめて時間がかかりますが、分野横断的協働の基盤づくりのプロセスとして重要だと感じます。最初は主観的な意見に偏りがちな委員のみなさんも、最近では会議に合わせて様々な資料を事前に用意されていますし、データに基づいた意見も増えてきました。ゆっくりとしたスタートで事務局としてはご心配かと思いますが、このプロセスが肝心です。

また、今回は、第1回サーベイランス委員会が開催されました。初めての会議ということで JISC 白石からサーベイランス委員会の位置づけと役割についてご説明させていただきました。ただ、他の自治体も同様ですが、すぐにはすべてを理解いただくのは大変で、様々なご質問がでてきて事務局も大変だったようです。委員のほとんどは他自治体の事例などもご存じないなかで、まだイメージがわからないのだと思いますので、これから具体的に

何をやっていくのかが見えてくれば、ご理解いただけるのではないかと期待しています。

【厚木市】ISS 再認証に向けて準備着々と

22 日午後、厚木市において市立清水小学校の ISS 再認証審査に向けた打合せを行いました。ISC ご担当及び教育委員会との打ち合わせの後、清水小学校に向かい、校長先生などと現地審査の段取り及び当日の報告内容について打合せをしました。

校長先生が「ISS は清水小学校の学校文化になりました」とおっしゃるように、校内の端々に ISS がみられました。清水小では PTA によって「ISS 基金」が設置されており、学校の安全向上のために活用されています。今回は、校内にカーブミラーがいくつも設置されていました。これによって、児童同士の衝突を防ぎ、来校者が玄関に入ってこられる姿を職員室から確認できるようになったそうです。また、この ISS の精神は小学校を卒業し、中学生になって続いているそうです。このような数字として表れないようなことも現地審査でご報告いただく予定です。ぜひ多くの方にこの 3 年間の歩みを共有していただきたいと思います。



また、23 日は、厚木市職員(係長以上)を対象に「再認証に向けてどのようなことが求められるか」というお話をさせていただきました。やはり、2008 年から取り組まれておられることもあり、SC が定着してきているな、という印象をうけました。厚木が認証された 2008 年には、厚木が最先端でしたが、後進の自治体も厚木市から多くを学んでステップアップしているので、後進の自治体からも学んでいただきたいと思い、事例等も併せてご紹介しました。



【発行】

一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構
(問い合わせは下記ヘッダーの連絡先まで)